

ほけんだより

香取市立東大戸小学校

色覚検査について

色覚検査で、何がわかるの？

人間には個人差があり、色の見え方も同様に一人一人異なっていると言えます。

色覚の検査を行うことで、その結果が大人数の人と明らかに異なっているかどうかを知ることができます。ただ、色の見え方が明らかに異なっているとしても、日常生活にほとんど支障がない程度であることがほとんどです。



どのように検査をするの？

検査は、「石原色覚検査表Ⅱ」という検査表を使用して養護教諭が行います。

(右図参照、全14項目)

検査は一人ずつ行いますので時間がかかります。プリント学習やテスト等をしている間、同時進行で一人ずつ隣の教室(家庭科室等)で検査をします。

検査自体は基本的に無言で行いますので、検査内容が他人に知られることはありません。ご安心ください。

～検査内容の一部です～

○の中に記号や数字が見えますね。
自分が見えたとおりに、筆でなぞってみてください。声はださないようにしてくださいね。

色の見え方に特性を持つ児童の例

(日本眼科医会の調査より)

保育園の頃からクレヨンの赤・緑・茶の区別があいまいだった(5歳男)

ゲーム機の充電の色(橙と黄緑)が区別できなかった(5歳男)

秋の葉の色という課題で緑色に塗った(7歳男)

理科のプリントで草や花の色をうまく塗れない(8歳男)

